

## 調査⑤医療機関調査結果（速報版）

## ①調査の目的

医療関係者の在宅療養への取組状況、市への意見や要望等を把握することで、医療介護連携の更なる推進について検討する。

## ②調査対象

- ・市内の病院・診療所・病院、歯科診療所、薬局、訪問看護ステーション：467 機関

## ③調査方法

- ・郵送配布・郵送回収（督促礼状 1 回送付）

## ④調査時期

- ・令和元年 10 月 11 日～10 月 28 日

## ⑤回収率

区分	発送・配布数	回収数（率）		有効回収数（率）	
医療機関	467	287	(61.5%)	285	(61.0%)

## ⑥調査項目

項目	設問No.	設問
<b>A 基本属性</b>		
	問 1	所属している医療機関
	問 2	職種
<b>B 医療と介護の連携の状況</b>		
	問 3	在宅療養者への医療と介護の連携の状況
	問 3-1	連携していないと思う理由
	問 4	退院前(時)カンファレンスやサービス担当者会議への出席の有無
	問 5	介護サービス事業者とのトラブル
	問 5-1	介護サービス事業者との間で発生した問題やトラブルの内容（自由回答）
	問 6	関係機関、職種との連携状況
	問 7	介護保険制度、介護保険サービスの理解
	問 8	在宅医療についての考え
	問 8-1	どのように関わりたいか（自由回答）
	問 9	医療職と介護職が連携するために充実するとよいこと
	問 10	在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える介護職
	問 11	認知症や認知症の介護に関する研修受講の意向
<b>C 医師の取組状況</b>		
	問 12	行っている在宅医療
	問 12-1	訪問診療や居宅療養管理指導の依頼元
	問 13	他の医療機関との連携
	問 14	介護関係者との情報交換の機会
	問 15	ケアプランの送付と受け取りの必要性
	問 16	担当患者のうち認知症の症状がある人の割合
	問 17	認知症の症状がある人を治療するときに困ること
	問 18	認知症サポート医への相談の有無
	問 19	認知症専門医への紹介の有無
	問 19-1	認知症専門医への紹介の目的
	問 19-2	認知症専門医の種類
	問 19-3	認知症専門医に紹介するときに問題になること
<b>D 歯科医師の取組状況</b>		
	問 20	訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施
	問 20-1	訪問時の口腔衛生指導の実施
	問 20-2	歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導の実施
	問 20-3	訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療
	問 20-4	訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元
	問 21	今後の訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施の可能性
	問 22	在宅療養者のかかりつけ医との連携
	問 22-1	在宅療養者のかかりつけ医と連携していない理由

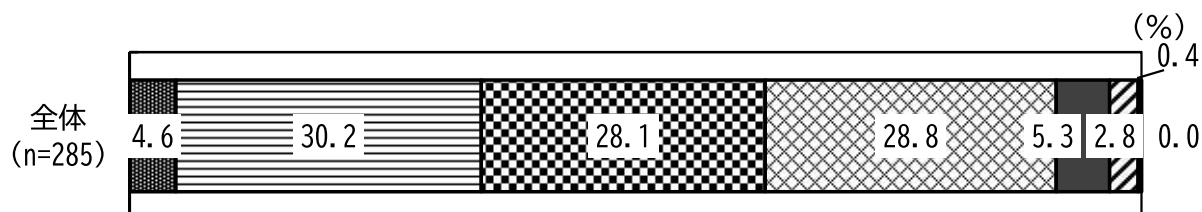
<b>E 薬剤師の取組状況</b>	
問 23	在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者の有無
問 23-1	居宅療養管理指導の依頼元
問 23-2	医師との連携状況
問 23-3	処方箋以外の連携の手段
問 23-4	在宅患者訪問薬剤管理指導の利用者がいない理由
問 24	在宅療養支援診療所の処方箋の取り扱い状況の有無
<b>F 訪問看護師の取組状況</b>	
問 25	在宅医療の活動状況
問 26	在宅医療を実施している医療機関との連携
問 26-1	連携が取れていない理由（自由回答）
問 27	医師との連携の方法
問 27-1	医師との連絡の手段
<b>G 病院の退院支援担当者（看護師、医療ソーシャルワーカー）の取組状況</b>	
問 28	在宅医療の活動状況
問 29	地域連携活動の内容
問 30	介護保険施設との連携
<b>H 地域包括ケアシステム構築に向けた医療と介護の連携</b>	
問 31	医療と在宅介護の連携で苦労している点（自由回答）
問 32	介護従事者等に期待すること（自由回答）
問 33 (1)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（連携の仕組みづくり）
問 33 (2)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（地域の人材育成）
問 33 (3)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（サービス・基盤整備）
問 33 (4)	医療と介護の連携が進むために必要なこと（情報提供・相談支援の充実）
問 34	医療と介護の連携についての意見・要望（自由回答）

## ⑦調査結果の概要

### (1) 回答者(医療機関)について

#### 問1 あなたが所属されている医療機関を教えてください。(1つに○)

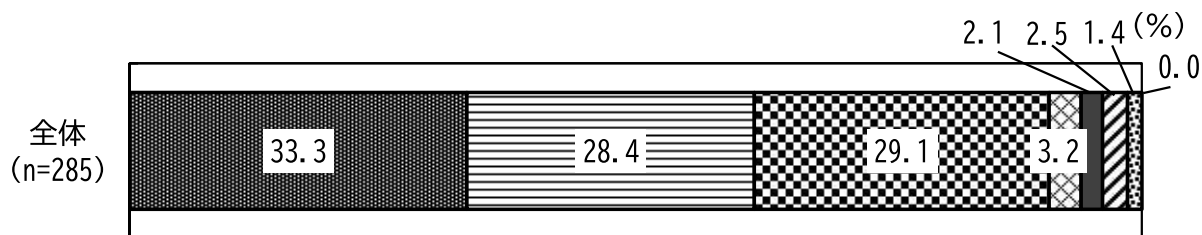
- ・「一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無)」(30.2%)が最も多く、次いで「薬局」(28.8%)、「歯科診療所」(28.1%)となっている。



- 一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出有)
- ▨ 一般診療所(在宅療養支援診療所としての届出無)
- ▩ 歯科診療所
- ▧ 薬局
- 訪問看護ステーション
- ▨ 病院の退院支援担当者(病院の地域連携室、看護師等)
- ▩ その他
- 無回答

#### 問2 あなたの職種は次のどれですか。(1つに○)

- ・「医師」(33.3%)が最も多く、次いで「薬剤師」(29.1%)、「歯科医師」(28.4%)となっている。

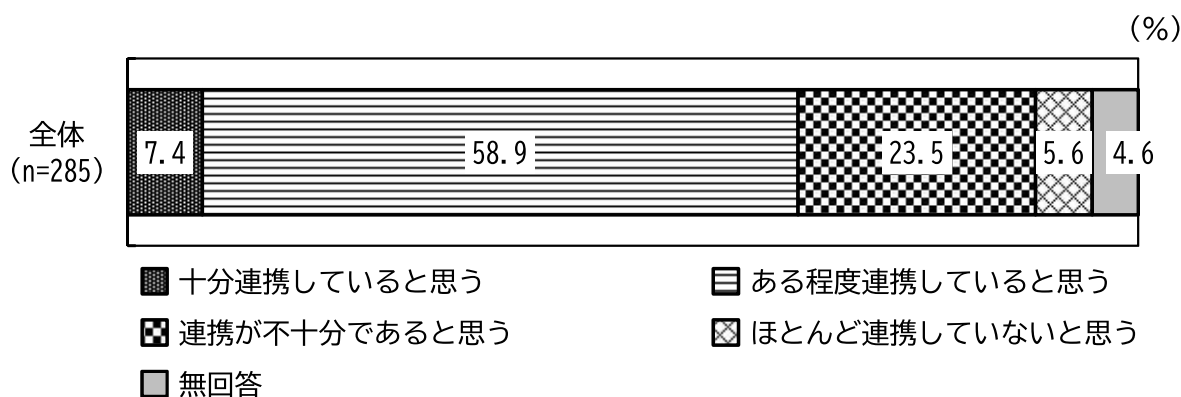


- 医師
- ▨ 歯科医師
- ▩ 薬剤師
- ▧ 看護師
- 訪問看護師
- ▨ 医療ソーシャルワーカー
- ▩ その他
- 無回答

## (2) 医療と介護の連携について

問3 あなたは、府中市民の在宅療養者を支える医療と介護の連携の状況についてどのように思いますか。  
(1つに○)

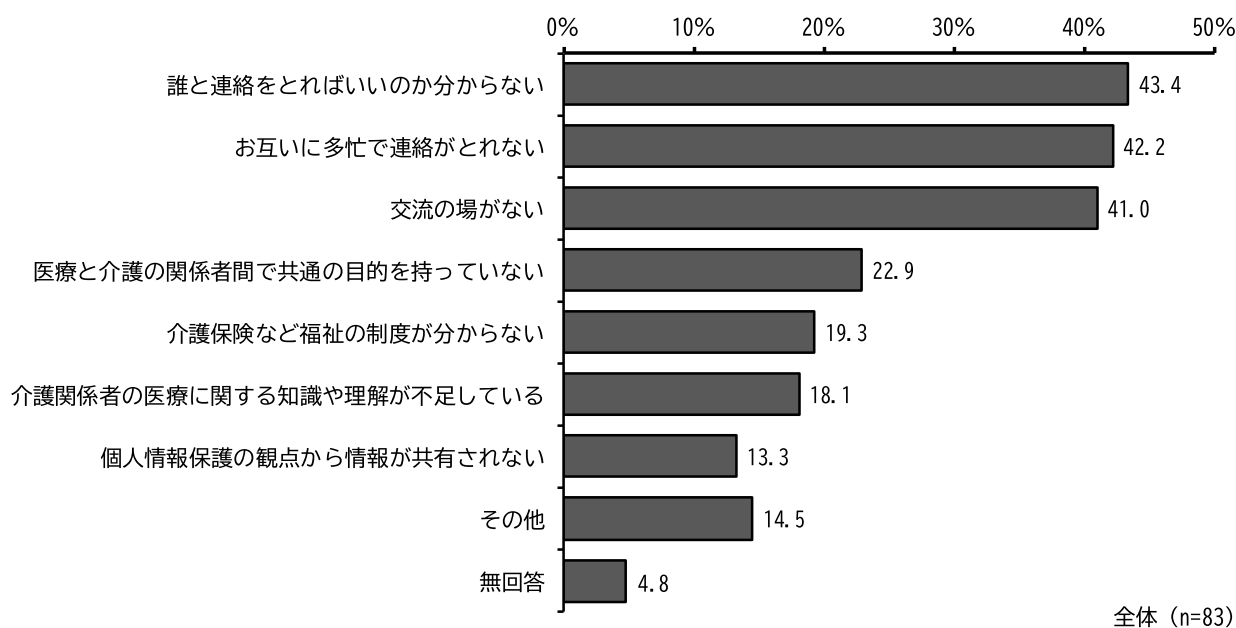
- ・「十分連携していると思う」(7.4%)、「ある程度連携していると思う」(58.9%)を合わせた割合は 66.3% となっている。一方、「連携が不十分であると思う」(23.5%)、「ほとんど連携していないと思う」(5.6%)を合わせた割合は 29.1%となっている。



«問3で「3」又は「4」とお答えの方におたずねします»

問3-1 あなたがそのように考える理由は何ですか。(3つまでに○)

- ・「誰と連絡をとればいいのか分からない」(43.4%)が最も多く、次いで「お互いに多忙で連絡がとれない」(42.2%)、「交流の場がない」(41.0%)、「医療と介護の関係者間で共通の目的を持っていない」(22.9%)、「介護保険など福祉の制度が分からない」(19.3%)と続いている。

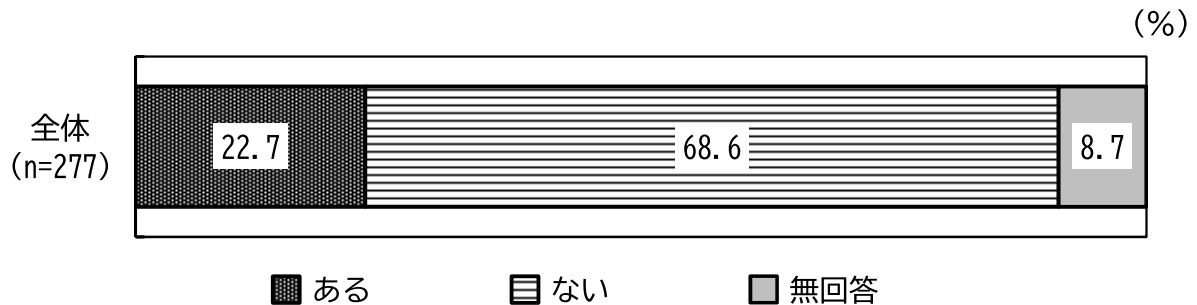


「<<病院の退院支援担当者以外の方におたずねします>>

問4 あなたは、退院前（時）カンファレンスやサービス担当者会議に出席したことがありますか。

（1つに○）

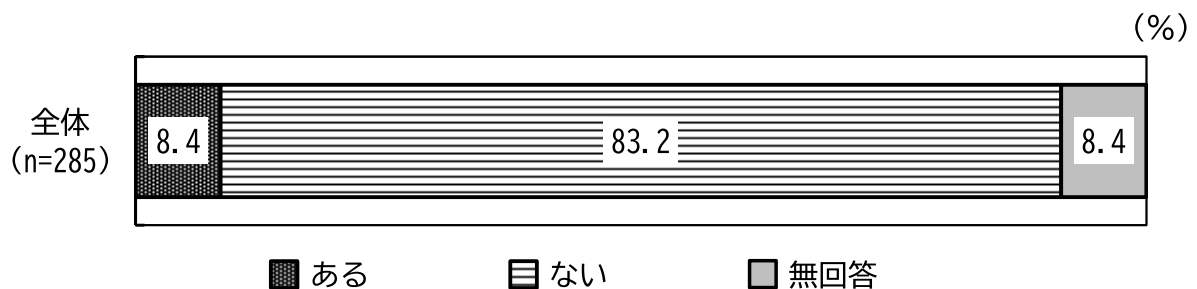
・「ある」が22.7%、「ない」が68.6%となっている。



問5 あなたは、介護サービス事業者との間で問題やトラブルの発生を経験したことがありますか。

（1つに○）

・「ある」が8.4%、「ない」が83.2%となっている。



「<<問5で「1」とお答えの方におたずねします>>

問5-1 どのような問題やトラブルの発生を経験しましたか。具体的にお書きください。

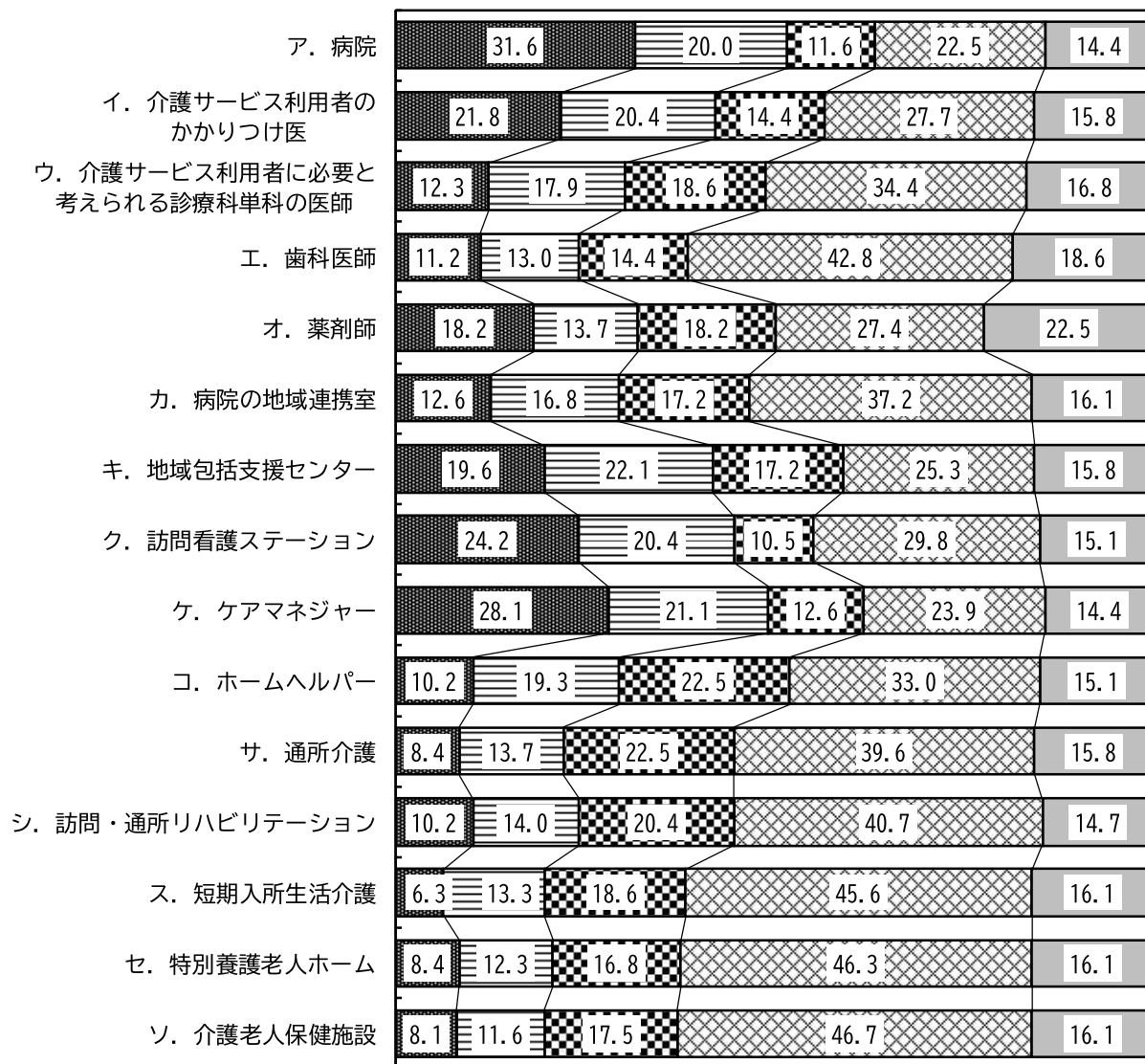
※集計中

問6 あなたが関わる介護サービス利用者について、次の関係機関、職種との連携状況をお答えください。  
(ア～ソそれぞれ1つに○)

- ・「連携している」と「少しは連携している」を合わせた割合は、『ア. 病院』(51.6%)が最も多く、次いで『ケ. ケアマネジャー』(49.2%)、『ク. 訪問看護ステーション』(44.6%)、『イ. 介護サービス利用者のかかりつけ医』(42.2%)、『キ. 地域包括支援センター』(41.7%)と続いている。
- ・一方、「あまり連携していない」と「連携していない」を合わせた割合は、『ス. 短期入所生活介護』と『ソ. 介護老人保健施設』(ともに64.2%)が最も多く、次いで『セ. 特別養護老人ホーム』(63.1%)、『サ. 通所介護』(62.1%)、『シ. 訪問・通所リハビリテーション』(61.1%)と続いている。

全体 (n=285)

(%)

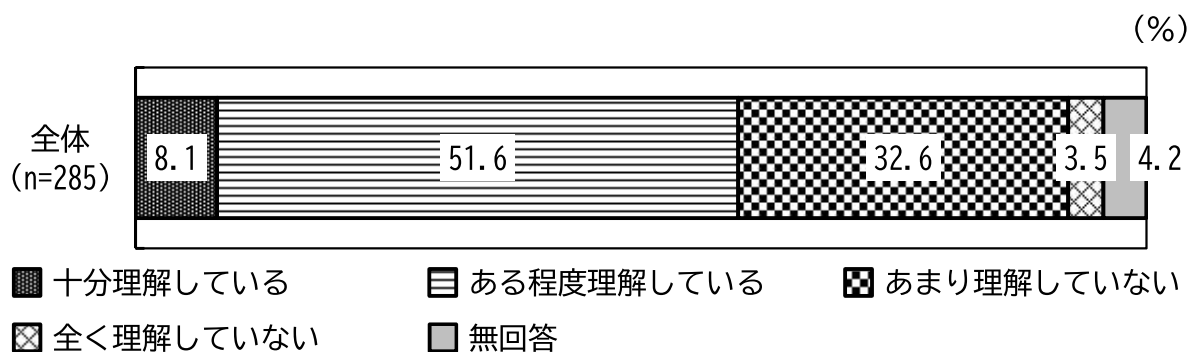


■ 連携している ■ 少しは連携している ■ あまり連携していない ■ 連携していない ■ 無回答

問7 あなたは、介護保険制度及び介護保険サービスの内容についてどの程度理解していますか。

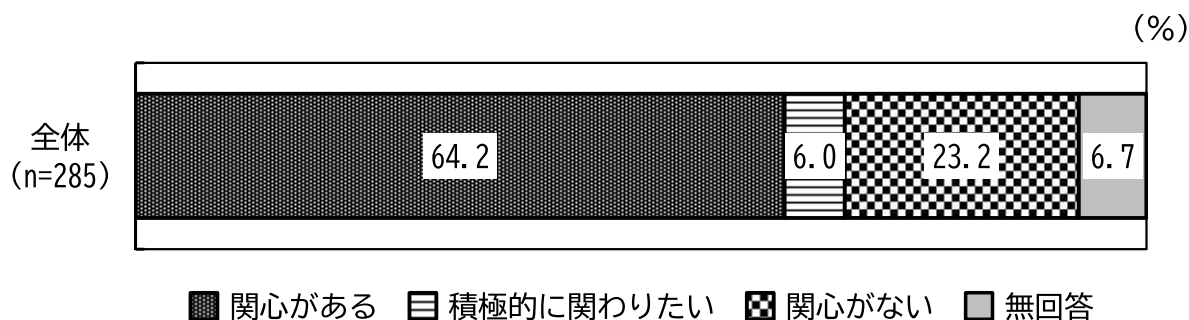
(1つに○)

- ・「十分理解している」(8.1%)、「ある程度理解している」(51.6%)を合わせた割合は59.7%となっている。
- ・一方、「あまり理解していない」(32.6%)、「全く理解していない」(3.5%)を合わせた割合は36.1%となっている。



問8 あなたは、在宅医療に関してどのようにお考えですか。(1つに○)

- ・「関心がある」が64.2%、「積極的に関わりたい」が6.0%、「関心がない」が23.2%となっている。



「問8で「2. 積極的に関わりたい」とお答えの方におたずねします」

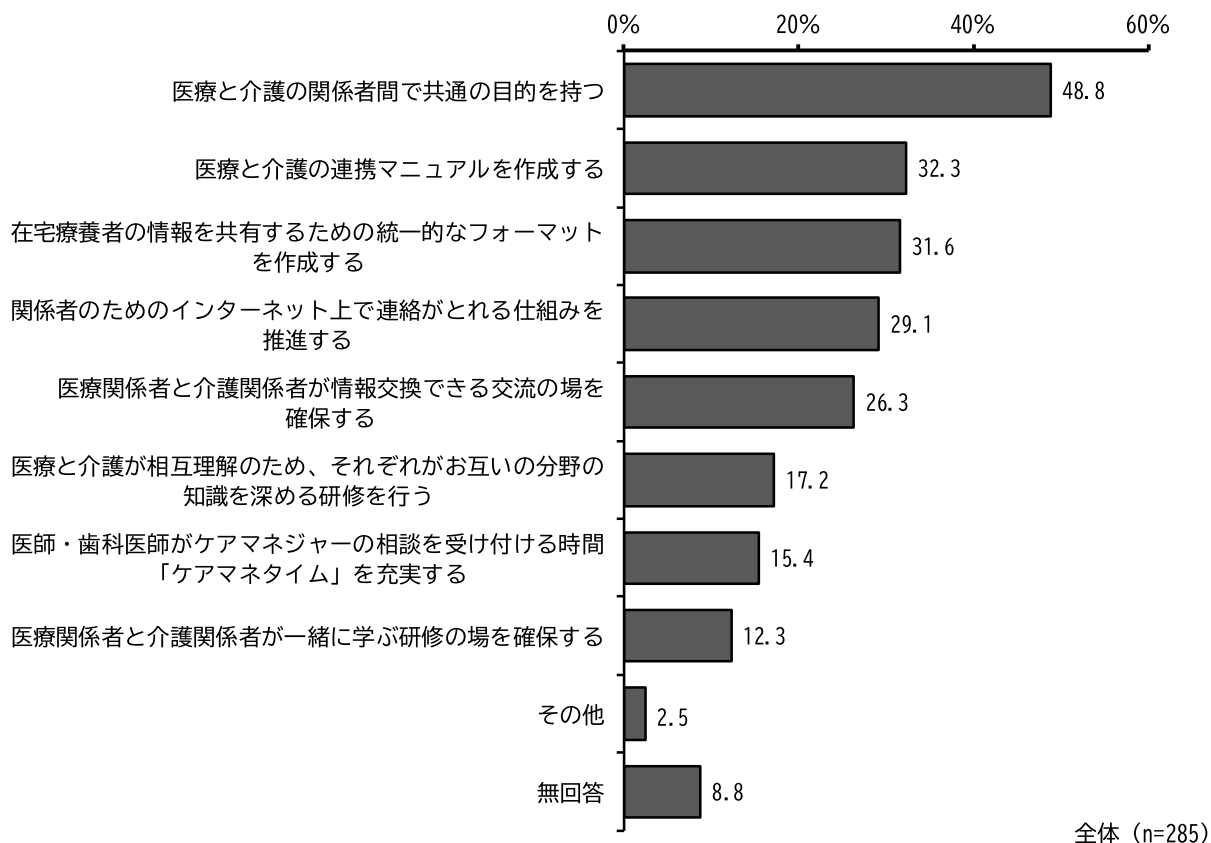
問8-1 あなたは、どのように関わりたいとお考えですか。具体的にお書きください。

※集計中



問9 あなたは、医療職と介護職が連携するために、どのようなことが充実するとよいと思いますか。(3つまでに○)

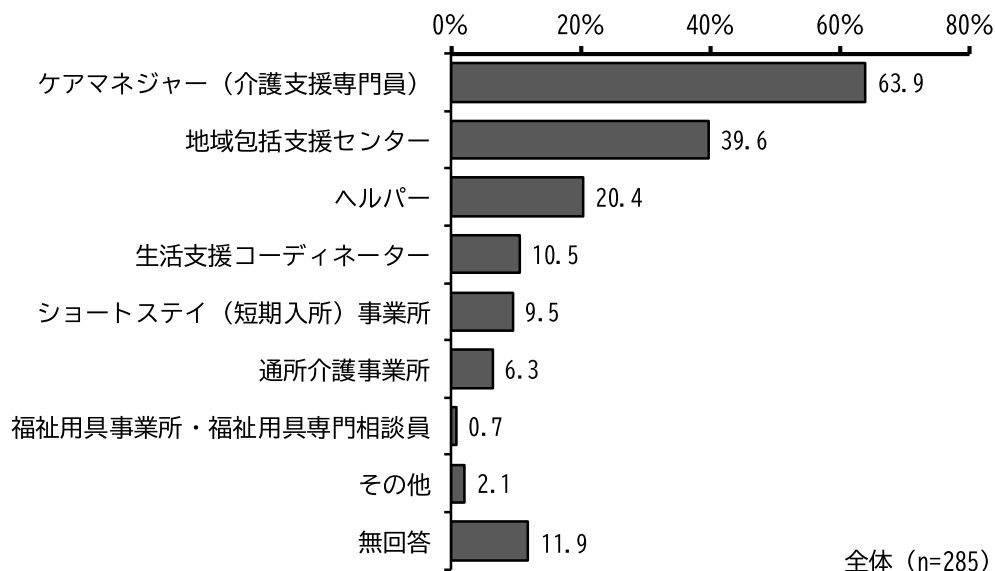
- ・「医療と介護の関係者間で共通の目的を持つ」(48.8%)が最も多く、次いで「医療と介護の連携マニュアルを作成する」(32.3%)、「在宅療養者の情報を共有するための統一フォーマットを作成する」(31.6%)、「関係者のためのインターネット上で連絡がとれる仕組みを推進する」(29.1%)、「医療関係者と介護関係者が情報交換できる交流の場を確保する」(26.3%)と続いている。



問 10 在宅療養を支えるうえで、さらに連携が必要と考える事業所や介護職は何ですか。

(2つまでに○)

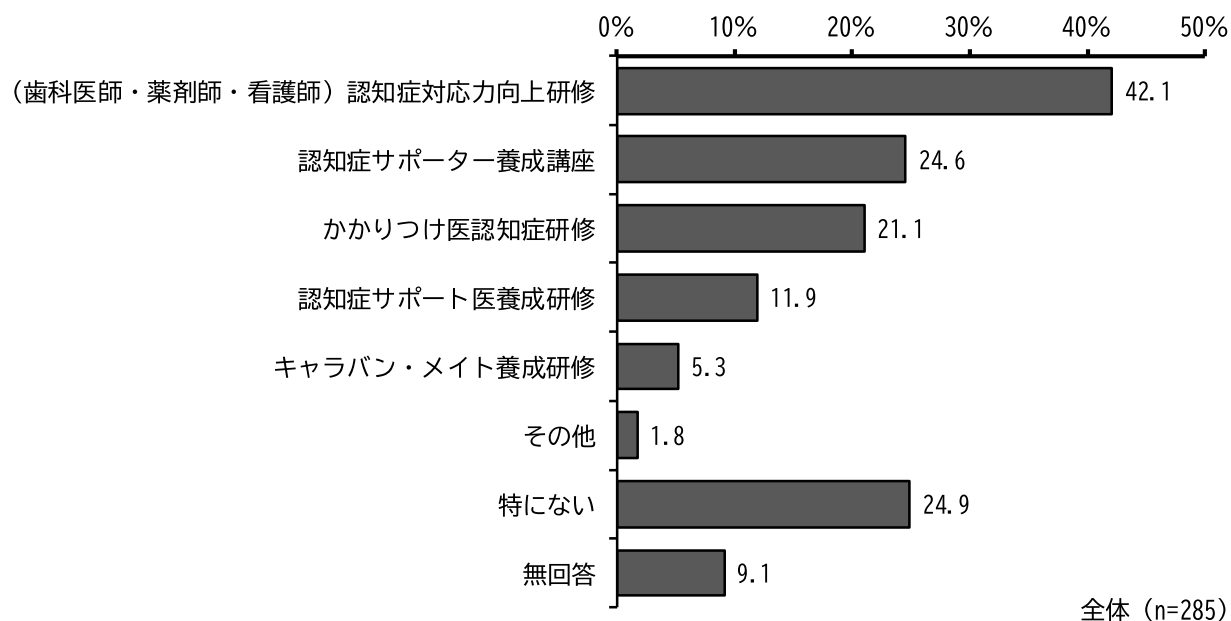
- ・「ケアマネジャー（介護支援専門員）」(63.9%)が最も多く、次いで「地域包括支援センター」(39.6%)、「ヘルパー」(20.4%)と続いている。



問 11 あなたは今後、次のような認知症や認知症の介護に関する研修があれば受けてみたいですか。

(いくつでも○)

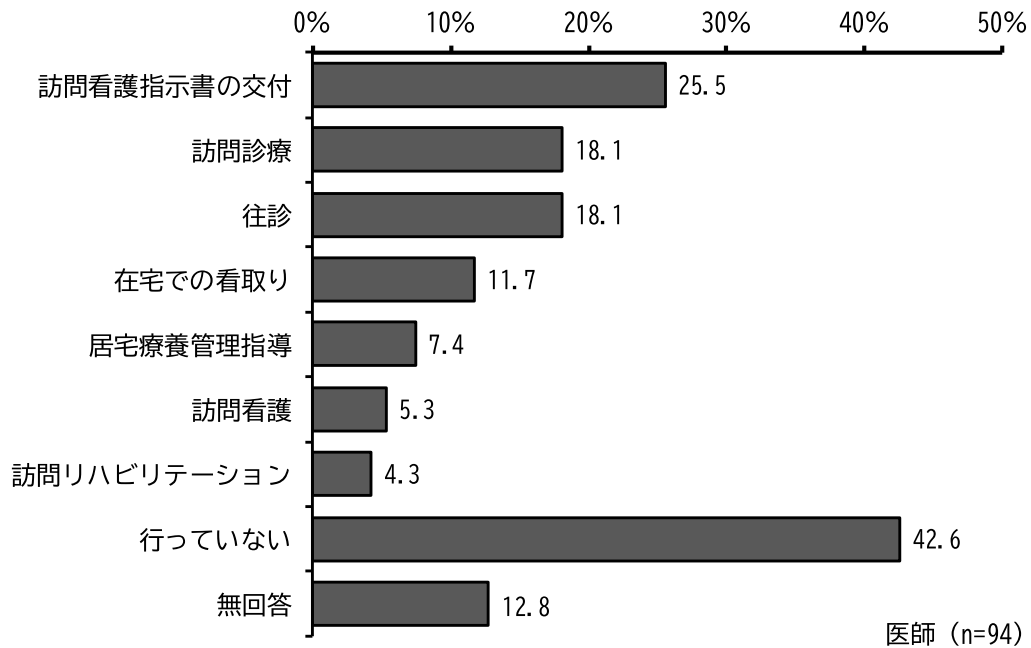
- ・「(歯科医師・薬剤師・看護師) 認知症対応力向上研修」(42.1%)が最も多く、次いで「認知症サポーター養成講座」(24.6%)、「かかりつけ医認知症研修」(21.1%)と続いている。
- ・一方、「特にない」は24.9%となっている。



### (3) 診療所（医師の方）について

#### 問 12 現在、あなたの診療所が行っている在宅医療はどれですか。（いくつでも○）

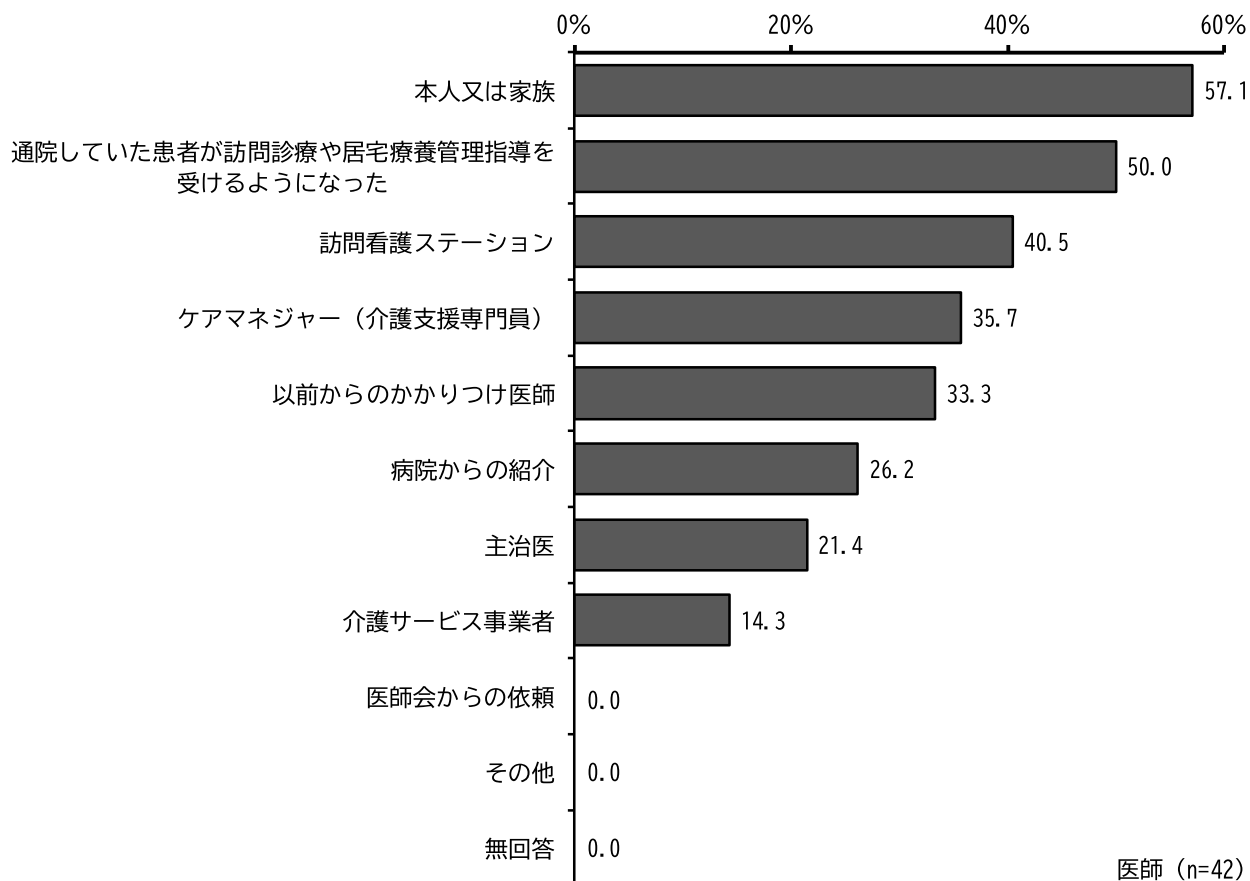
- ・「訪問看護指示書の交付」(25.5%)が最も多く、次いで「訪問診療」「往診」(ともに18.1%)、「在宅での看取り」(11.7%)、「居宅療養管理指導」(7.4%)と続いている。
- ・一方、「行っていない」は42.6%となっている。



「問 12 で「1」～「7」とお答えの方におたずねします」

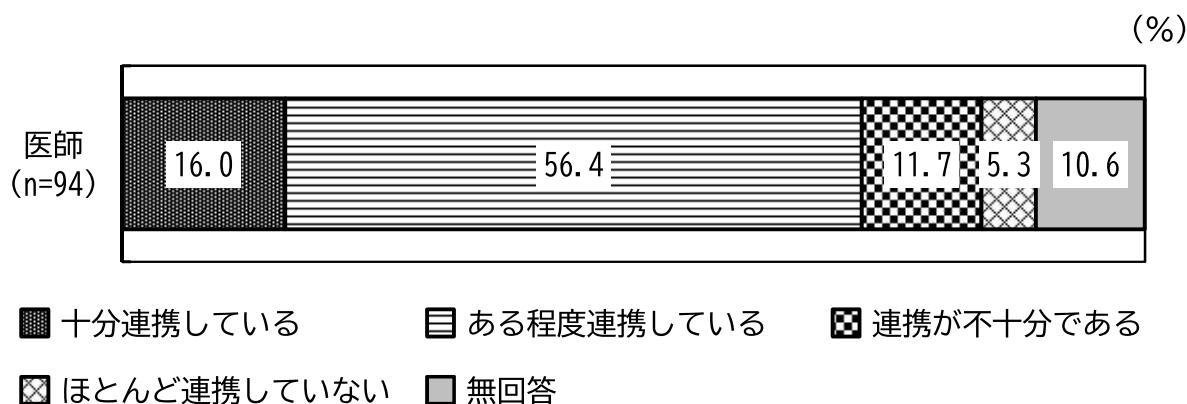
問 12-1 訪問診療や居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。(いくつでも○)

- ・「本人又は家族」(57.1%)が最も多く、次いで「通院していた患者が訪問診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」(50.0%)、「訪問看護ステーション」(40.5%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(35.7%)、「以前からのかかりつけ医師」(33.3%)と続いている。



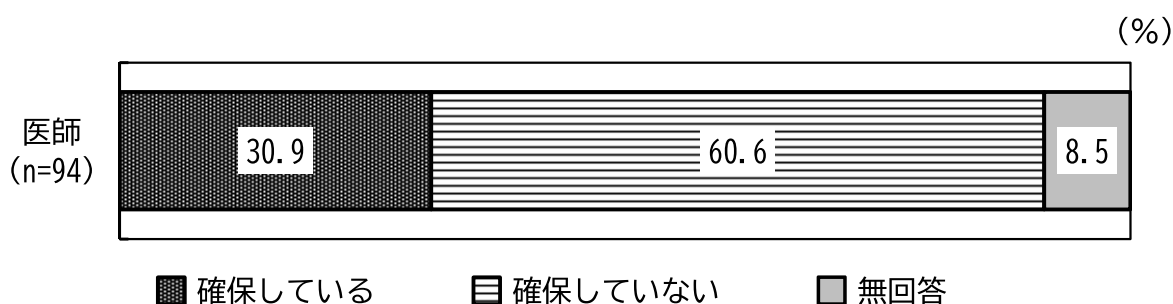
問 13 あなたの診療所と、他の医療機関との連携はとれていますか。(1つに○)

- ・「十分連携している」(16.0%)、「ある程度連携している」(56.4%)を合わせた割合は72.4%となっている。一方、「連携が不十分である」(11.7%)、「ほとんど連携していない」(5.3%)を合わせた割合は17.0%となっている。



問 14 あなたの診療所では、介護関係者との情報交換の機会を確保していますか。(1つに○)

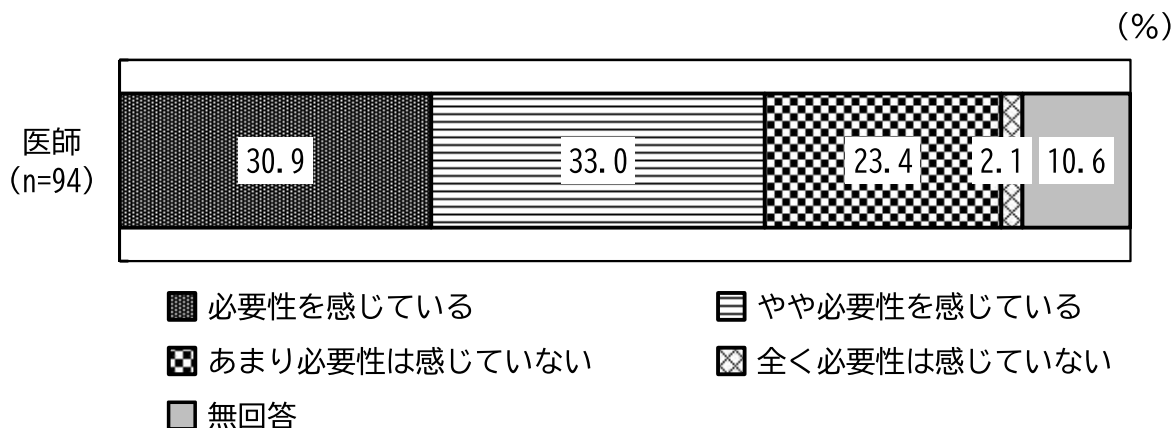
- ・「確保している」が30.9%、「確保していない」が60.6%となっている。



問 15 あなたは、ケアプランの送付と受け取りの必要性についてどのようにお考えですか。

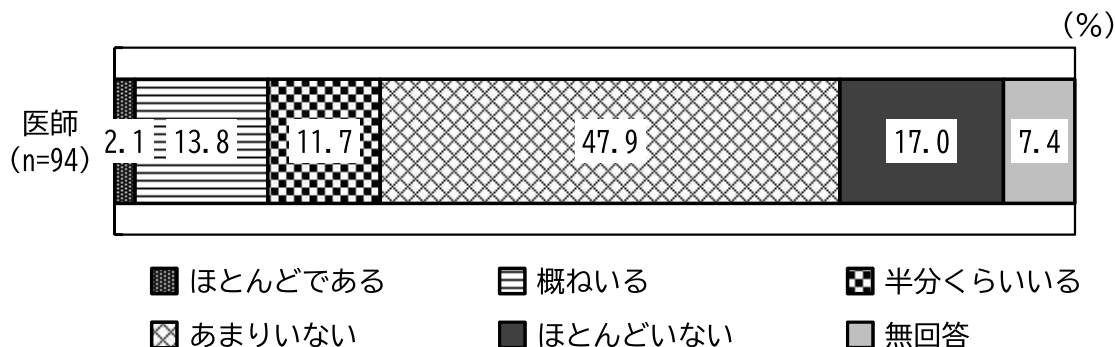
(1つに○)

- ・「必要性を感じている」(30.9%)、「やや必要性を感じている」(33.0%)を合わせた割合は63.9%となっている。一方、「あまり必要性は感じていない」(23.4%)、「全く必要性は感じていない」(2.1%)を合わせた割合は25.5%となっている。



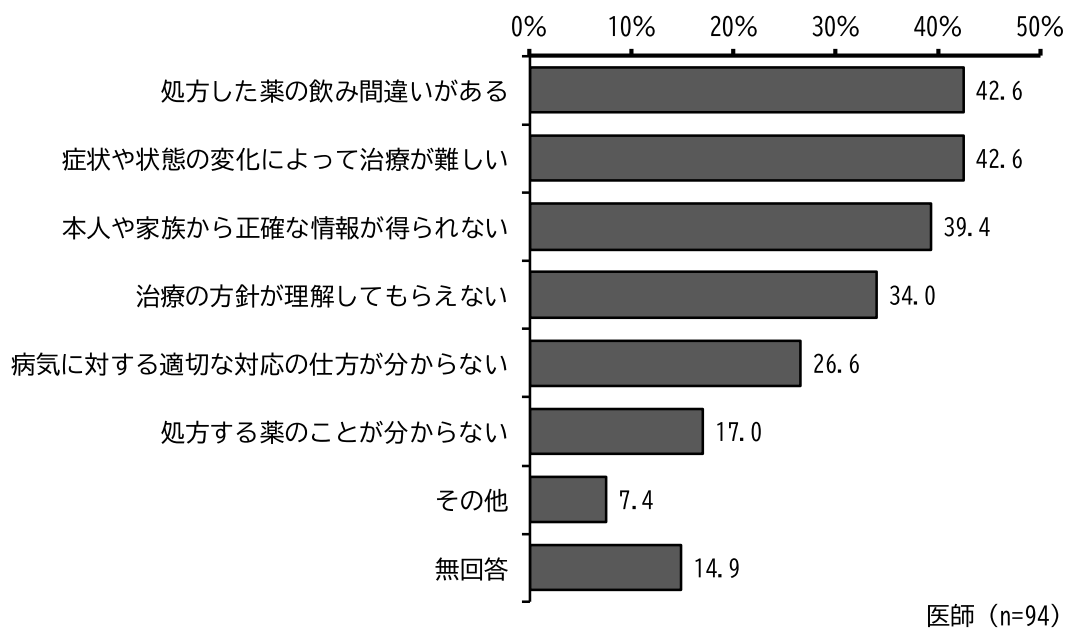
**問 16 あなたが担当している患者のうち、認知症の症状がある人はどの程度いますか。(1つに○)**

- ・「ほとんどである」(2.1%)、「概ねいる」(13.8%)を合わせた割合は 15.9%となっている。一方、「あまりいない」(47.9%)、「ほとんどいない」(17.0%)を合わせた割合は 64.9%となっている。



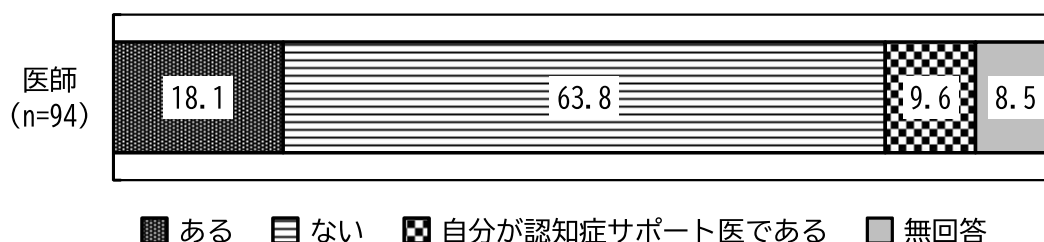
**問 17 あなたが、認知症の方を治療するときに困ることは何ですか。(いくつでも○)**

- ・「処方した薬の飲み間違いがある」と「症状や状態の変化によって治療が難しい」(ともに 42.6%)が最も多く、次いで「本人や家族から正確な情報が得られない」(39.4%)、「治療の方針が理解してもらえない」(34.0%)、「病気に対する適切な対応の仕方が分からない」(26.6%)と続いている。



**問 18 あなたは、認知症サポート医に相談をしたことがありますか。(1つに○)**

- ・「ある」が 18.1%、「ない」が 63.8%、「自分が認知症サポート医である」が 9.6%となっている。



**問 19 あなたは、認知症の方の治療を専門医に紹介することはありますか。（1つに○）**

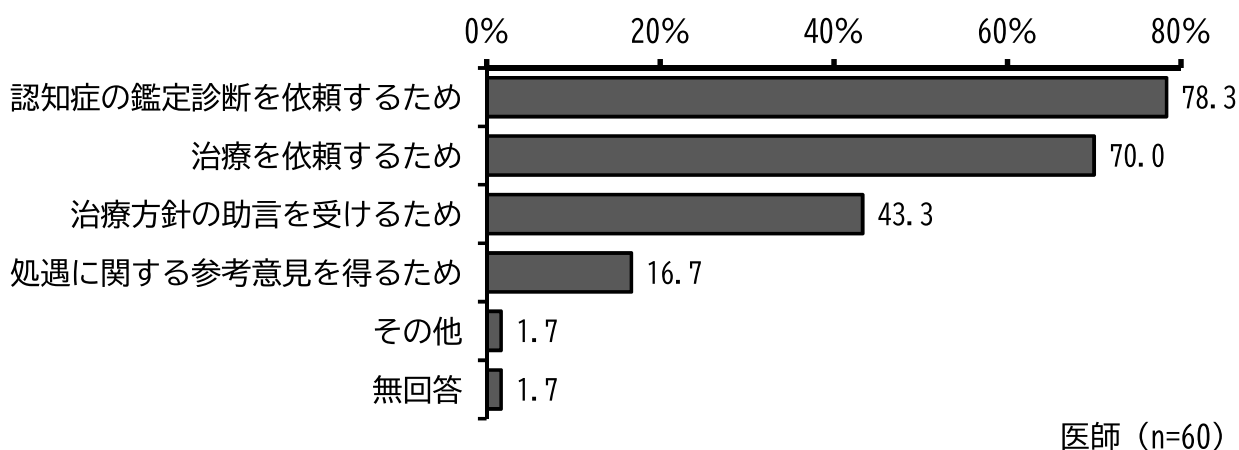
・「ある」が63.8%、「ない」が27.7%となっている。



**「問 19 で「1. ある」と回答した方におたずねします」**

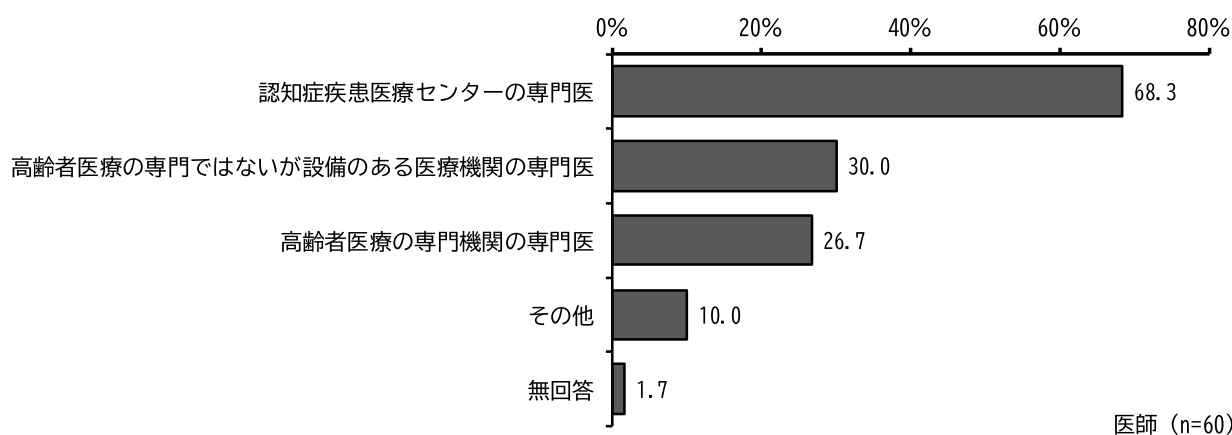
**問 19-1 どのような目的で紹介をしますか。（いくつでも○）**

・「認知症の鑑定診断を依頼するため」(78.3%)が最も多く、次いで「治療を依頼するため」(70.0%)、「治療方針の助言を受けるため」(43.3%)と続いている。



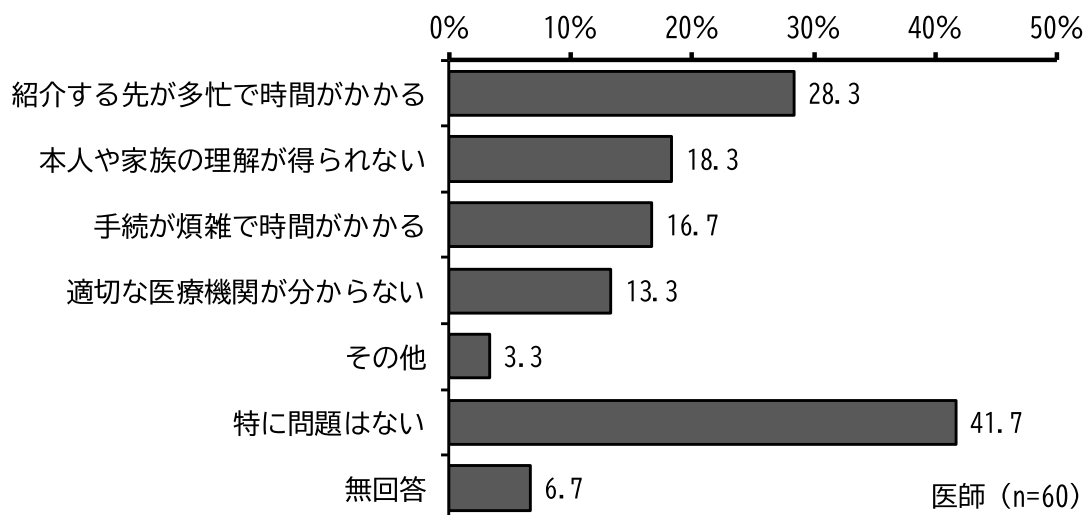
**問 19-2 どのような機関の専門医ですか。（いくつでも○）**

・「認知症疾患医療センターの専門医」(68.3%)が最も多く、次いで「高齢者医療の専門ではないが設備のある医療機関の専門医」(30.0%)、「高齢者医療の専門機関の専門医」(26.7%)となっている。



**問 19-3 そのときどのようなことが問題になりますか。(いくつでも○)**

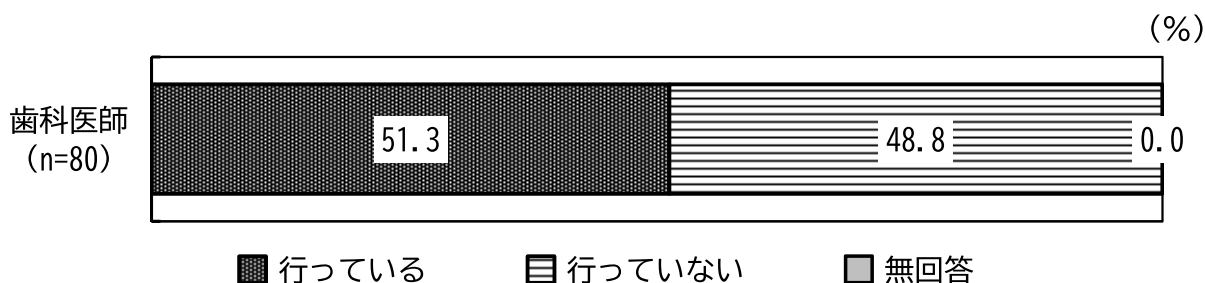
- ・「紹介する先が多忙で時間がかかる」(28.3%)が最も多く、次いで「本人や家族の理解が得られない」(18.3%)、「手続きが煩雑で時間がかかる」(16.7%)、「適切な医療機関が分からない」(13.3%)と続いている。
- ・一方、「特に問題はない」は41.7%となっている。



**(4) 歯科診療所 (歯科医師の方) について**

**問 20 あなたの歯科診療所では、訪問歯科診療や居宅療養管理指導を行っていますか。(1つに○)**

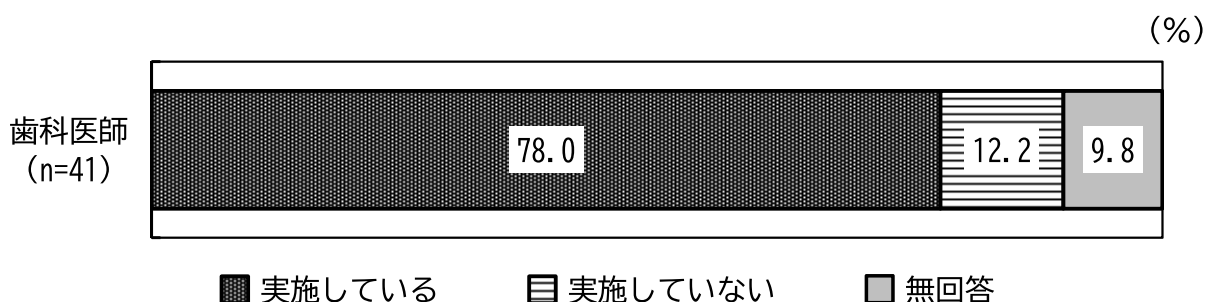
- ・「行っている」が51.3%、「行っていない」が48.8%となっている。



«問 20で「1」とお答えの方におたずねします»

**問 20-1 あなたの歯科診療所では、訪問時に口腔衛生指導等を実施していますか。(1つに○)**

- ・「実施している」が78.0%、「実施していない」が12.2%となっている。





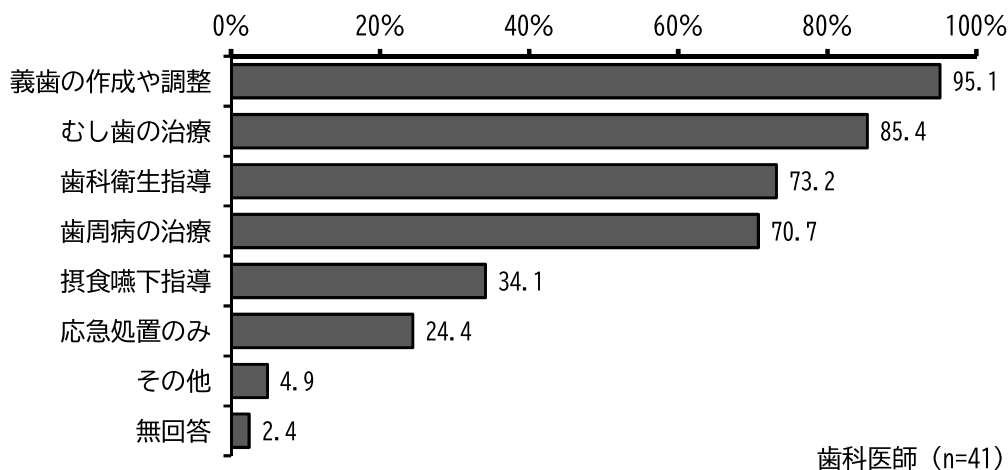
問 20-2 あなたの歯科診療所では、歯科衛生士による訪問歯科衛生指導及び居宅療養管理指導を実施していますか。(1つに○)

- ・「実施している」が73.2%、「実施していない」が24.4%となっている。



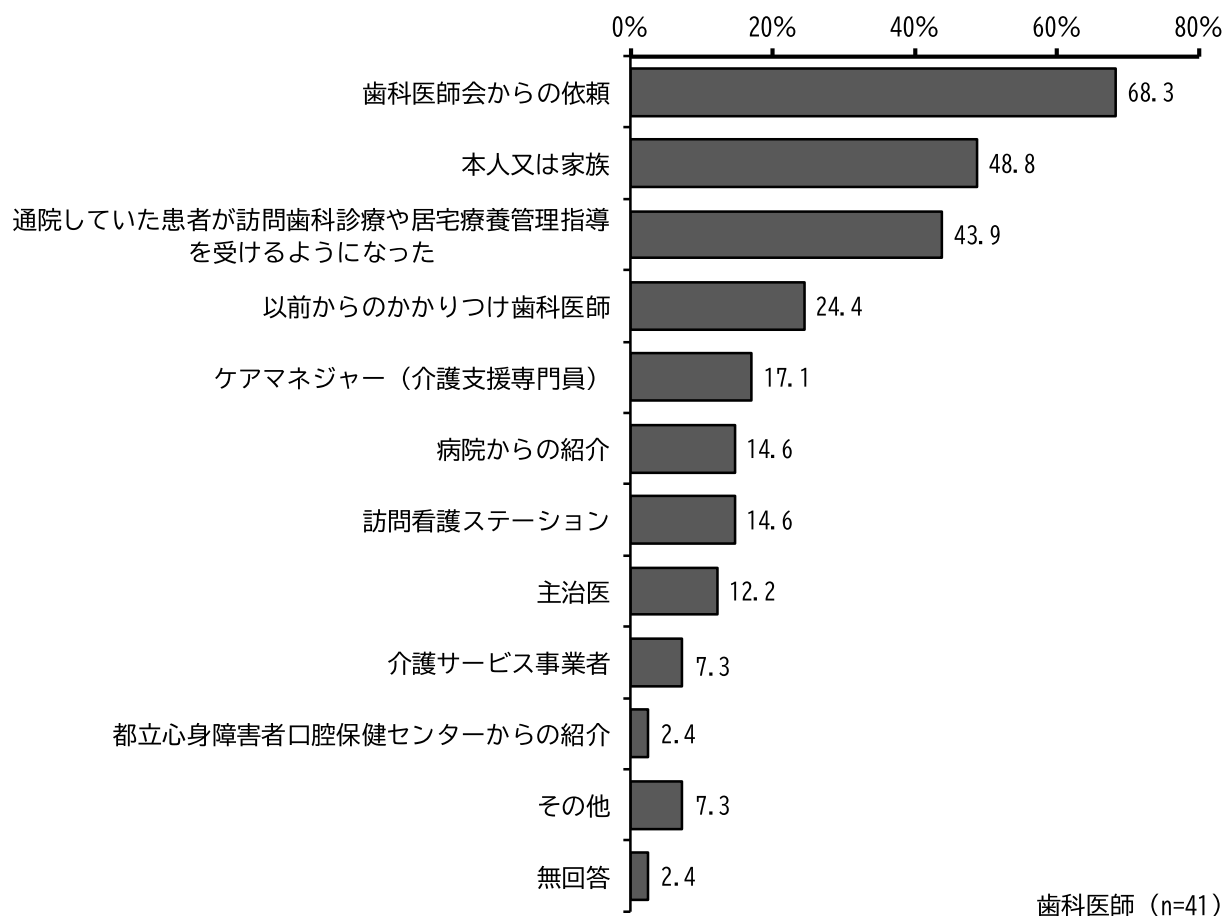
問 20-3 訪問歯科診療や居宅療養管理指導で対応可能な治療は何ですか。(いくつでも○)

- ・「義歯の作成や調整」(95.1%)が最も多く、次いで「むし歯の治療」(85.4%)、「歯科衛生指導」(73.2%)、「歯周病の治療」(70.7%)と続いている。



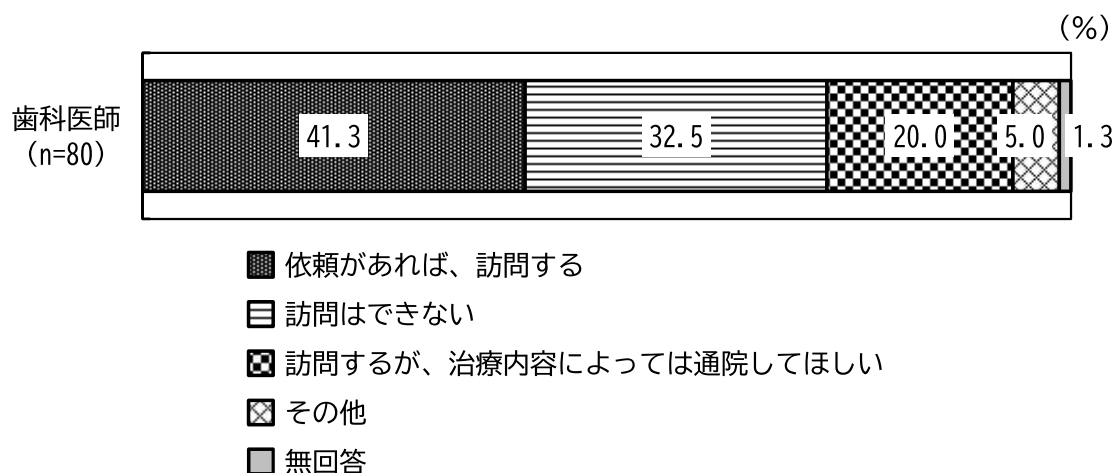
**問 20-4 訪問歯科診療や居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。(いくつでも○)**

- ・「歯科医師会からの依頼」(68.3%)が最も多く、次いで「本人又は家族」(48.8%)、「通院していた患者が訪問歯科診療や居宅療養管理指導を受けるようになった」(43.9%)と続いている。



**問 21 今後、依頼があった場合に訪問歯科診療や居宅療養管理指導の実施は可能ですか。(1つに○)**

- ・「依頼があれば、訪問する」(41.3%)、「訪問するが、治療内容によっては通院してほしい」(20.0%)、「訪問はできない」(32.5%)となっている。



問 22 あなたの歯科診療所では、在宅で療養生活を送っている府中市民の方の主治医（かかりつけ医）と連携していますか。（1つに○）

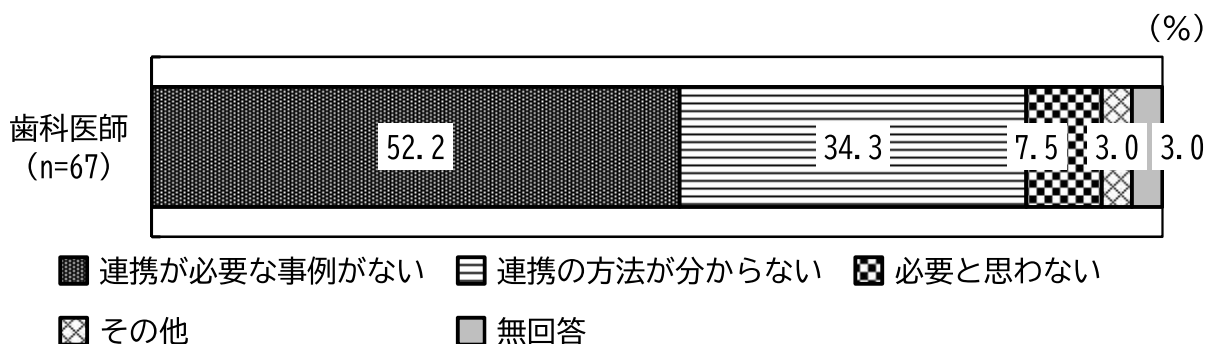
- ・「連携している」が13.8%、「あまり連携していない」が35.0%、「連携していない」が48.8%となっている。



「問 22 で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします」

問 22-1 その理由は何ですか。（1つに○）

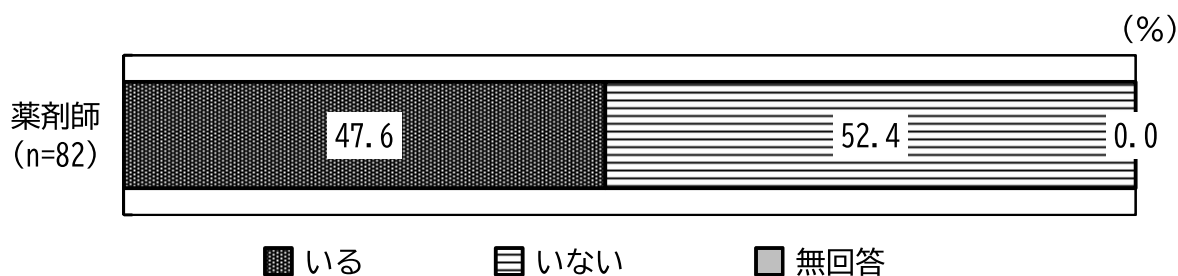
- ・「連携が必要な事例がない」が52.2%、「連携の方法が分からない」が34.3%、「必要と思わない」が7.5%となっている。



(5) 薬局（薬剤師の方）について

問 23 あなたの薬局を利用されている方の中に、現在、在宅患者訪問薬剤管理指導（居宅療養管理指導）を利用している府中市民はいますか。（1つに○）

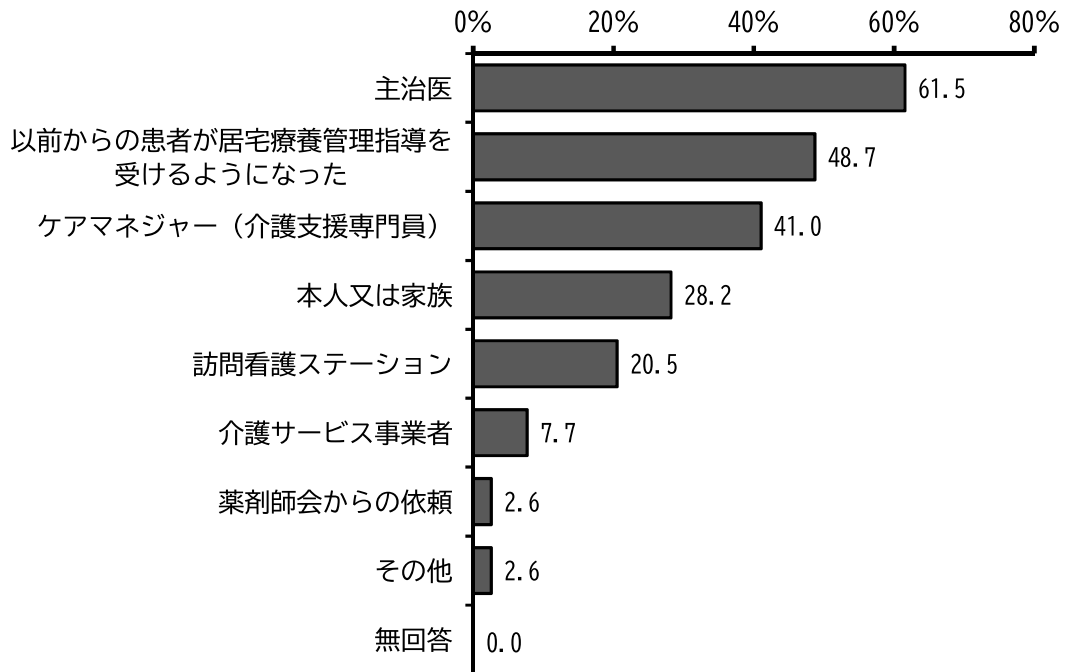
- ・「いる」が47.6%、「いない」が52.4%となっている。



「問 23 で「1」とお答えの方におたずねします」

問 23-1 居宅療養管理指導の依頼元はどこですか。(いくつでも○)

- ・「主治医」(61.5%)が最も多く、次いで「以前からの患者が居宅療養管理指導を受けるようになった」(48.7%)、「ケアマネジャー(介護支援専門員)」(41.0%)と続いている。



薬剤師 (n=39)

問 23-2 あなたは、医師との連携をどのようにしていますか。(1つに○)

- ・「処方箋のみのやりとり」が 12.8%、「処方箋以外の連携や指示がある」が 79.5%となっている。

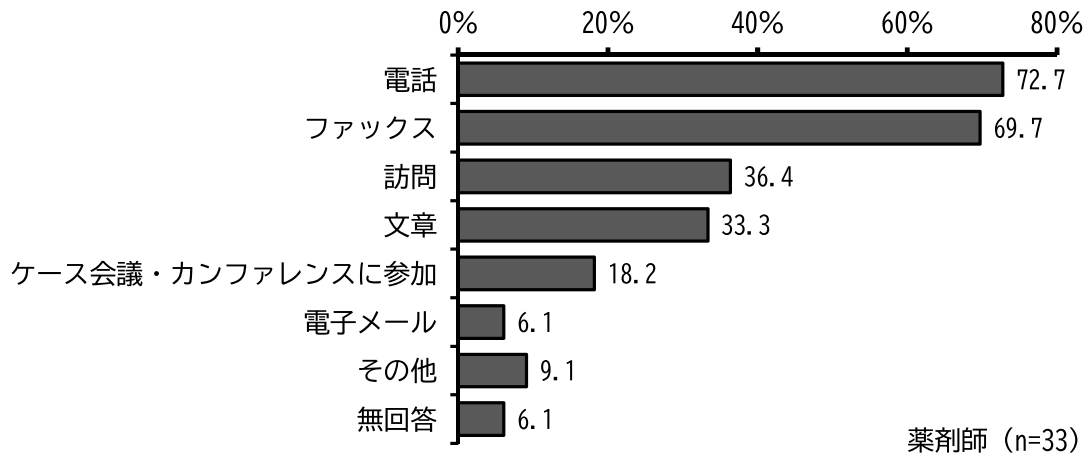


■ 処方箋のみのやりとり ■ 処方箋以外の連携や指示がある ■ その他 ■ 無回答

「問 23-2で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします」

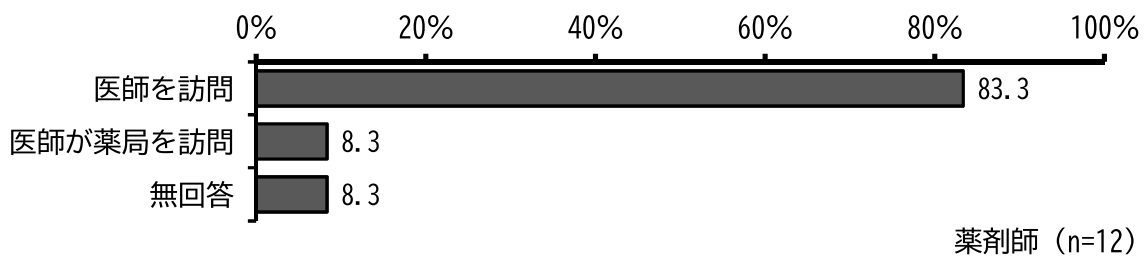
問 23-3 具体的にどのような手段が用いられていますか。(いくつでも○)

- ・「電話」(72.7%)が最も多く、次いで「ファックス」(69.7%)、「訪問」(36.4%)、「文章」(33.3%)と続いている。



【訪問】の方法

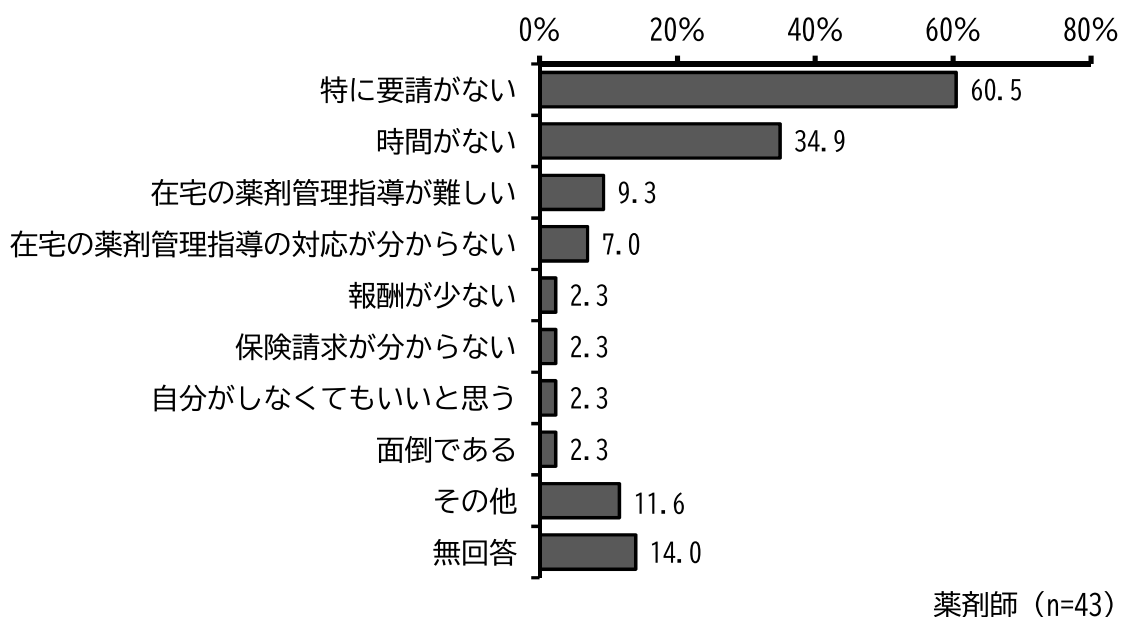
- ・「医師を訪問」が 83.3%、「医師が薬局を訪問」が 8.3%となっている。



「問 23で「2」とお答えの方におたずねします」

問 23-4 いない理由は次のどれですか。(いくつでも○)

- ・「特に要請がない」(60.5%)が最も多く、次いで「時間がない」(34.9%)、「在宅の薬剤管理指導が難しい」(9.3%)、「在宅の薬剤管理指導の対応が分からない」(7.0%)と続いている。



問 24 あなたは、府中市内で訪問診療を行う在宅療養支援診療所の処方箋を取り扱っていますか。

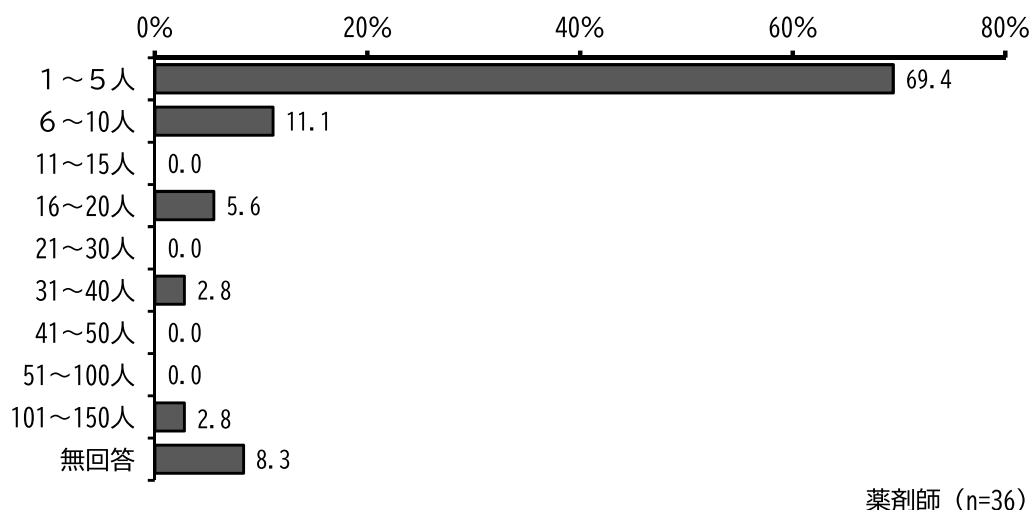
(1つに○)

- ・「取り扱っている」が43.9%、「取り扱っていない」が51.2%となっている。



【「取り扱っている」1か月平均の人数】

- ・「1～5人」(69.4%)が最も多く、次いで「6～10人」(11.1%)、「16～20人」(5.6%)、「31～40人」「101～150人」(ともに2.8%)と続いている。

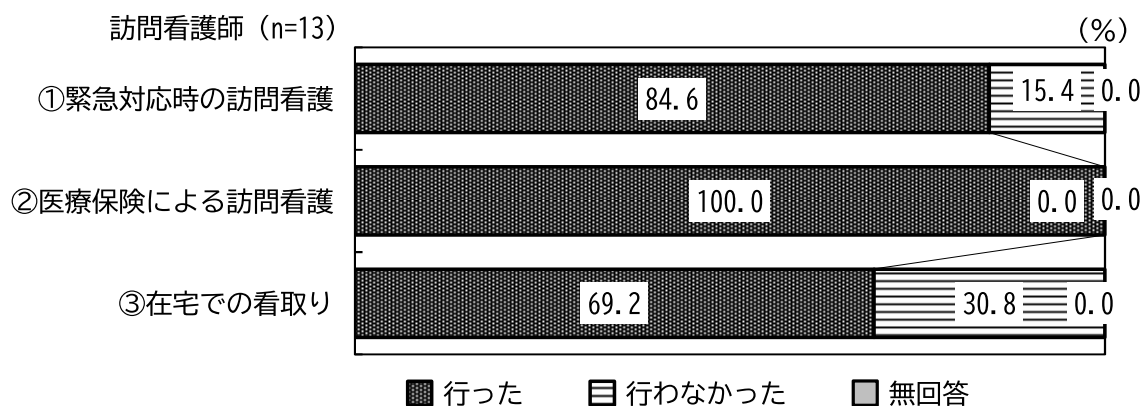


(6) 訪問看護ステーション（訪問看護師の方）について

問 25 あなたの訪問看護ステーションでの、令和元年9月中の活動状況をお答えください。

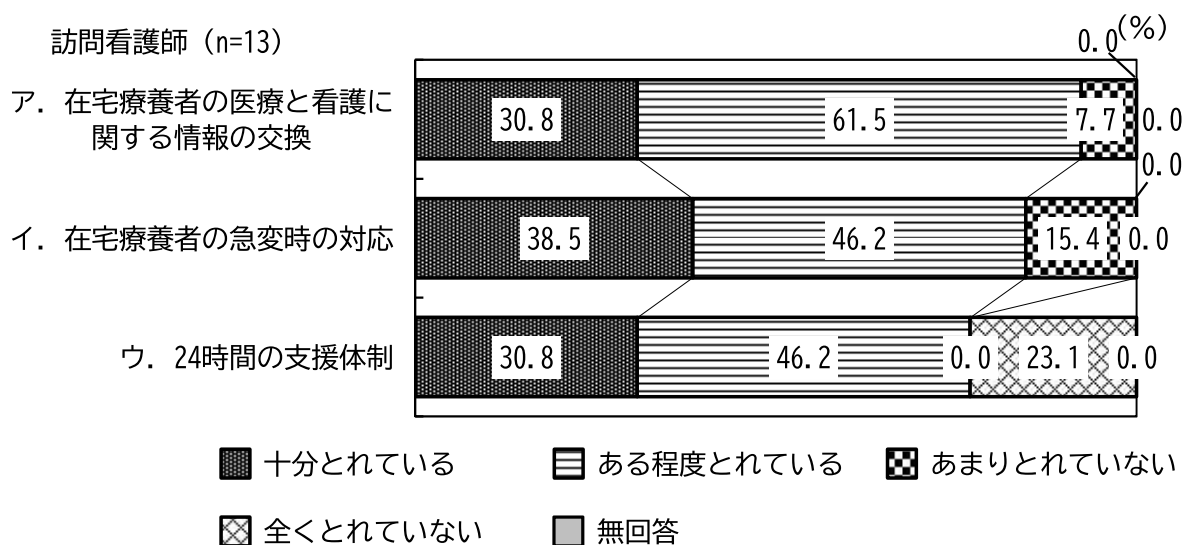
(①～③それぞれ1つに○)

- ・「行った」割合は、『①緊急対応時の訪問看護』が84.6%、『②医療保険による訪問看護』が100.0%、『③在宅での看取り』が69.2%となっている。



**問 26 あなたの訪問看護ステーションでは、在宅医療を実施している医療機関とどのような連携をとっていますか。(ア～ウそれぞれ1つに○)**

- ・『ア. 在宅療養者の医療と看護に関する情報の交換』は、「十分とれている」(30.8%)、「ある程度とれている」(61.5%)を合わせた割合は92.3%となっている。一方、「あまりとれていない」(7.7%)、「全くとれていない」(0.0%)を合わせた割合は7.7%となっている。
- ・『イ. 在宅療養者の急変時の対応』は、「十分とれている」(38.5%)、「ある程度とれている」(46.2%)を合わせた割合は84.7%となっている。一方、「あまりとれていない」(15.4%)、「全くとれていない」(0.0%)を合わせた割合は15.4%となっている。
- ・『ウ. 24時間の支援体制』は、「十分とれている」(30.8%)、「ある程度とれている」(46.2%)を合わせた割合は77.0%となっている。一方、「あまりとれていない」(0.0%)、「全くとれていない」(23.1%)を合わせた割合は23.1%となっている。



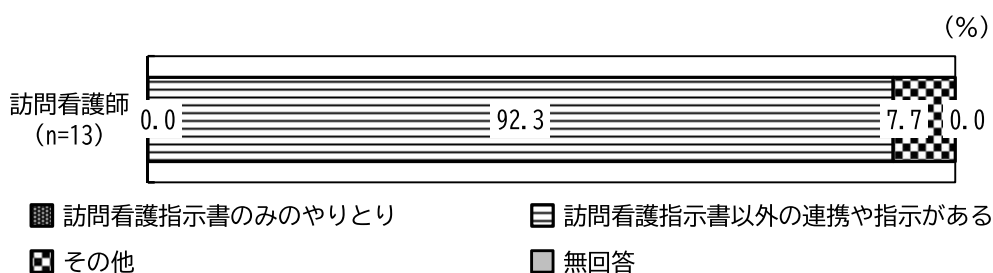
「問 26 で、1つでも「3」又は「4」とお答えの方におたずねします」

**問 26-1 在宅医療を実施している医療機関との連携がとれていない理由として特筆すべきことがございましたら、ご自由にお書きください。**

※集計中

**問 27 あなたは、医師との連携をどのようにとっていますか。(1つに○)**

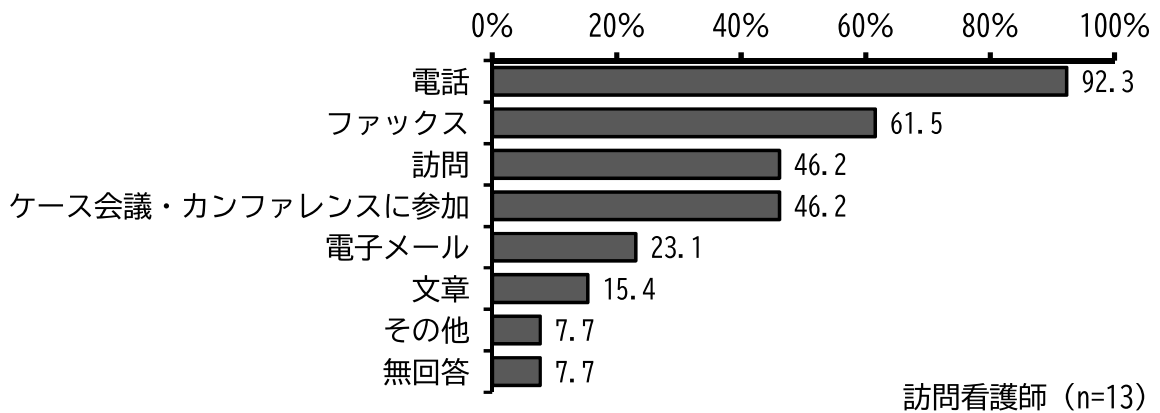
- ・「訪問看護指示書以外の連携や指示がある」が92.3%となっている。



「問 27 で「2」又は「3」とお答えの方におたずねします」

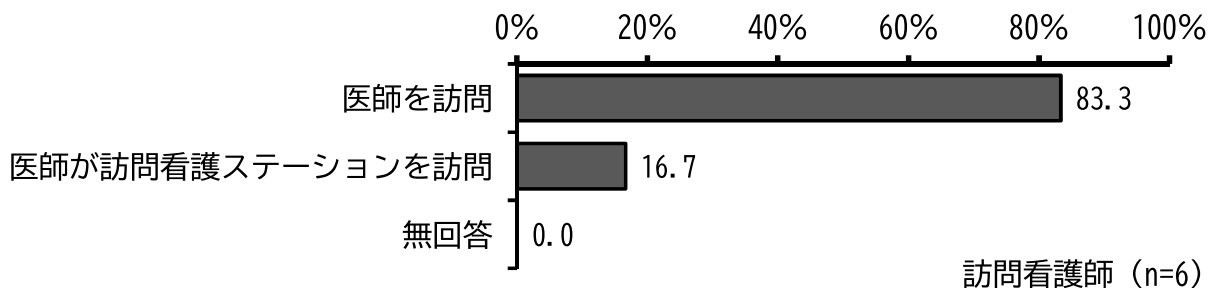
問 27-1 具体的にどのような手段が用いられていますか。(いくつでも○)

- ・「電話」(92.3%)が最も多く、次いで「ファックス」(61.5%)、「訪問」「ケース会議・カンファレンスに参加」(ともに 46.2%)、「電子メール」(23.1%)と続いている。



【訪問】の方法

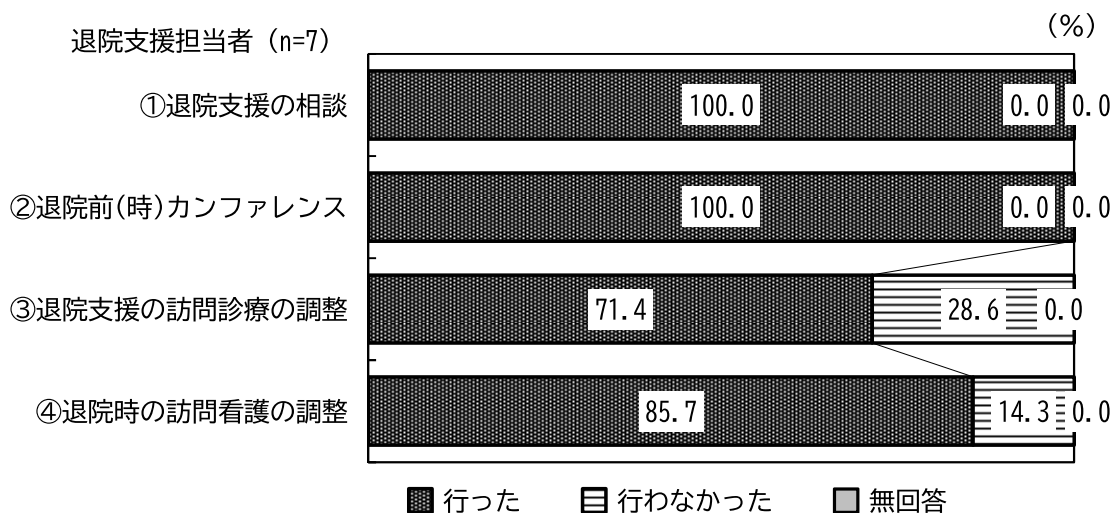
- ・「医師を訪問」が 83.3%、「医師が訪問看護ステーションを訪問」が 16.7%となっている。



(7) 病院の退院支援担当医者(医療ソーシャルワーカー、看護師)について

問 28 貴医院における令和元年9月中の活動状況をお答えください。(①~④それぞれ1つに○)

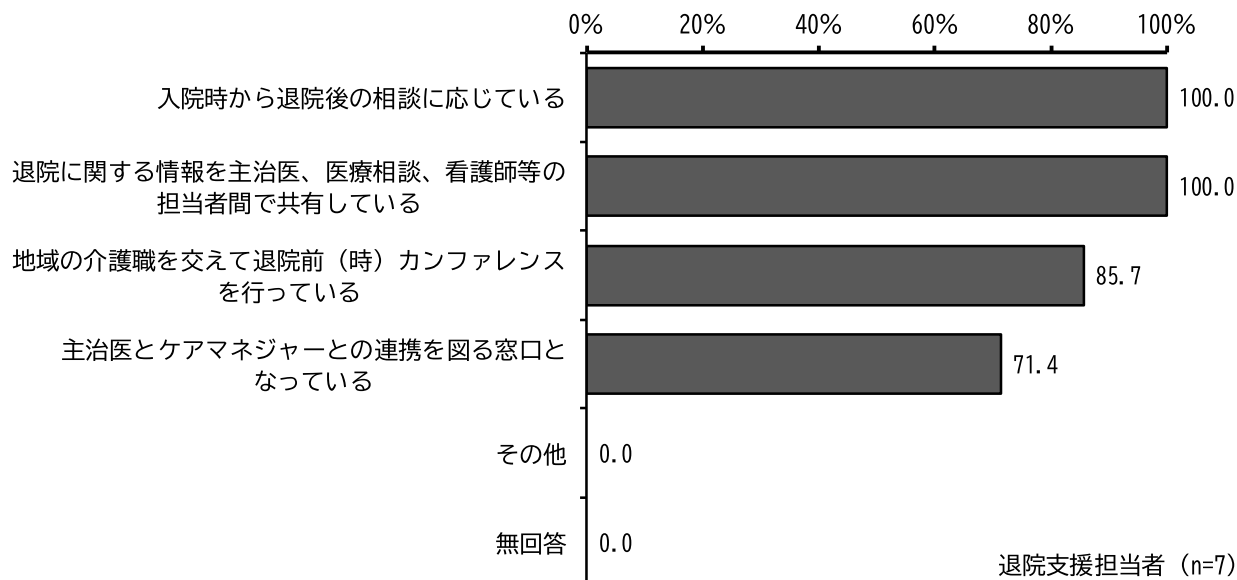
- ・「行った」割合は、『①退院支援の相談』『②退院前(時)カンファレンス』がともに 100.0%、『③退院支援の訪問診療の調整』が 71.4%、『④退院時の訪問看護の調整』が 85.7%となっている。





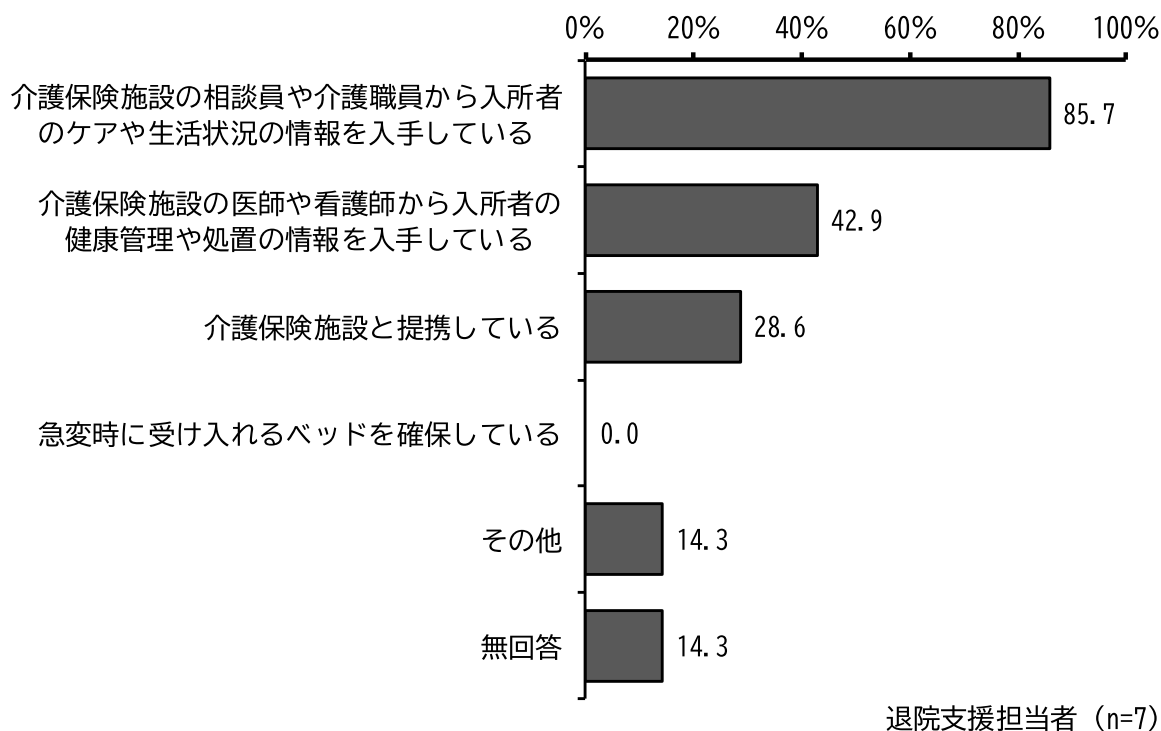
**問 29 貴医院では、どのような地域連携活動を行っていますか。(いくつでも○)**

- ・「入院時から退院後の相談に応じている」と「退院に関する情報を主治医、医療相談、看護師等の担当者間で共有している」(ともに 100.0%)が最も多く、次いで「地域の介護職を交えて退院前(時)カンファレンスを行っている」(85.7%)、「主治医とケアマネジャー(介護支援専門員)との連携を図る窓口となっている」(71.4%)と続いている。



**問 30 あなたは、介護保険施設とどのように連携していますか。(いくつでも○)**

- ・「介護保険施設の相談員や介護職員から入所者のケアや生活状況の情報を入手している」(85.7%)が最も多く、次いで「介護保険施設の医師や看護師から入所者の健康管理や処置の情報を入手している」(42.9%)、「介護保険施設と提携している」(28.6%)と続いている。



## (8) 地域包括ケアシステムの構築に向けた医療と介護の連携について

「ここからは、すべての方がお答えください」

問 31 あなたは、医療と介護の連携で、どんなことに苦労していますか。具体的にお書きください。

※集計中

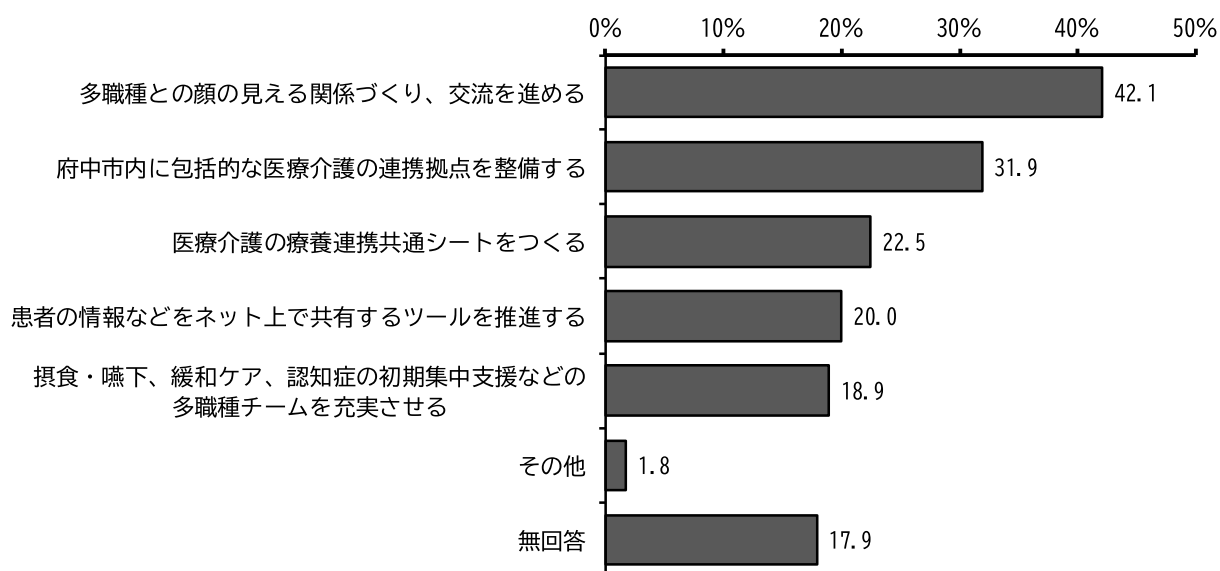
問 32 あなたは、ケアマネジャー（介護支援専門員）、訪問看護師、福祉施設介護員、福祉施設生活相談員、ホームヘルパー（訪問介護員）、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士にどのようなことを期待しますか。それぞれ具体的にお書きください。

※集計中

問 33 2025 年に向けて地域包括ケアシステムの構築が求められています。その中で医療と介護の連携は最重要課題であるといわれています。あなたは、これから府中市で医療と介護の連携が進むために、どのようなことが必要だとお考えですか。

### ①連携の仕組みづくり（2つまでに○）

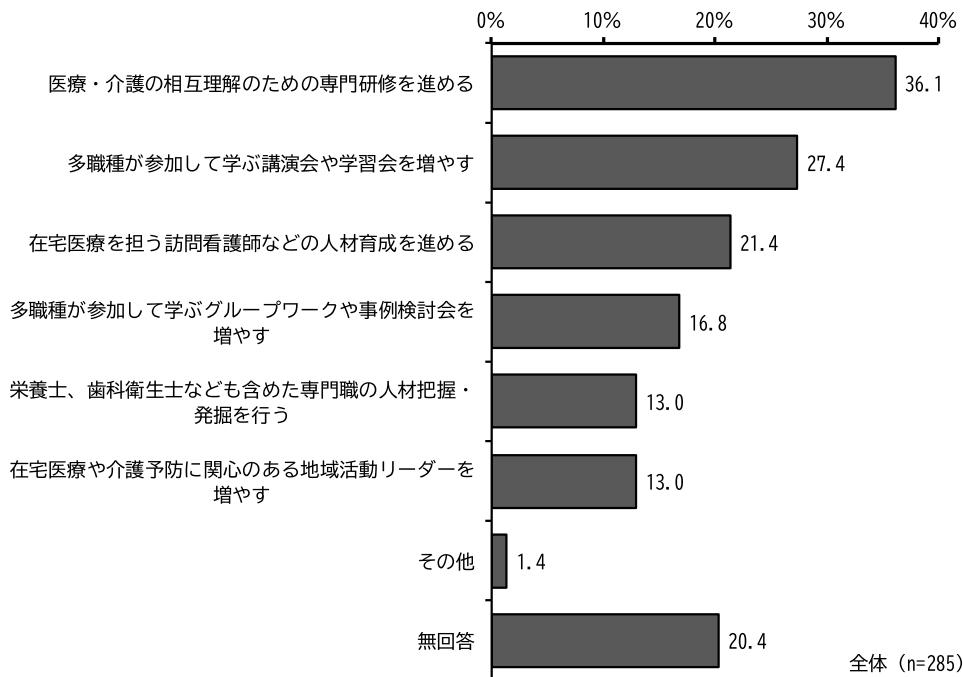
- ・「多職種との顔の見える関係づくり、交流を進める」(42.1%)が最も多く、次いで「府中市内に包括的な医療介護の連携拠点を整備する」(31.9%)、「医療介護の療養連携共通シートをつくる」(22.5%)、「患者の情報などをネット上で共有するツールを推進する」(20.0%)、「摂食・嚥下、緩和ケア、認知症の初期集中支援などの多職種チームを充実させる」(18.9%)と続いている。



全体 (n=285)

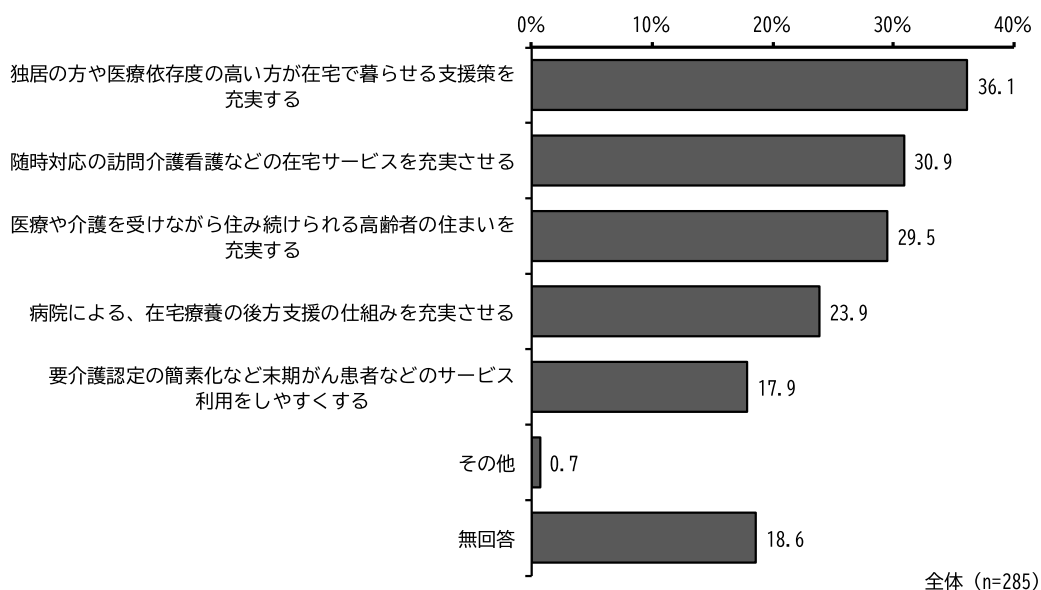
## ②地域の人材育成（2つまでに○）

- ・「医療・介護の相互理解のための専門研修を進める」(36.1%)が最も多く、次いで「多職種が参加して学ぶ講演会や学習会を増やす」(27.4%)、「在宅医療を担う訪問看護師などの人材育成を進める」(21.4%)、「多職種が参加して学ぶグループワークや事例検討会を増やす」(16.8%)、「栄養士、歯科衛生士なども含めた専門職の人材把握・発掘を行う」と「在宅医療や介護予防に関心のある地域活動リーダーを増やす」(ともに13.0%)と続いている。



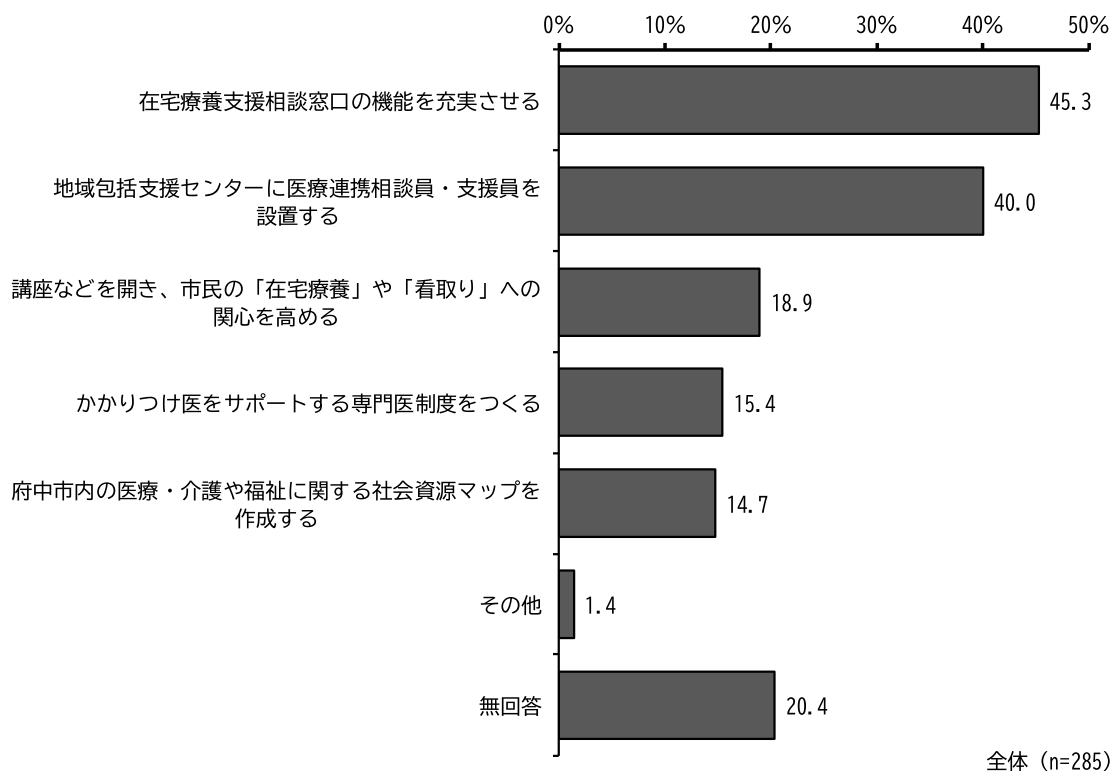
## ③サービス・基盤整備（2つまでに○）

- ・「独居の方や医療依存度の高い方が在宅で暮らせる支援策を充実する」(36.1%)が最も多く、次いで「随時対応の訪問介護看護などの在宅サービスを充実させる」(30.9%)、「医療や介護を受けながら住み続けられる高齢者の住まいを充実する」(29.5%)、「病院による、在宅療養の後方支援の仕組みを充実させる」(23.9%)、「要介護認定の簡素化など末期がん患者などのサービス利用をしやすいとする」(17.9%)と続いている。



#### ④情報提供・相談支援の充実（2つまでに○）

- ・「在宅療養支援相談窓口の機能を充実させる」(45.3%)が最も多く、次いで「地域包括支援センターに医療連携相談員・支援員を設置する」(40.0%)、「講座などを開き、市民の「在宅療養」や「看取り」への関心を高める」(18.9%)、「かかりつけ医をサポートする専門医制度をつくる」(15.4%)、「府中市内の医療・介護や福祉に関する社会資源マップを作成する」(14.7%)と続いている。



問 34 最後に、在宅療養者に対する医療や介護サービスのあり方、介護保険制度、医療保険制度等を含め、医療と介護の連携についてのご意見・ご要望等がございましたら、ご自由にお書きください。

※集計中